



みよし野菜

(下の作物は一部。他にもいろいろな作物があります。)



三芳やさい

三芳の大地が育んだ美味しく、高品質な野菜。先人たちの知恵により、落ち葉堆肥などを使った土づくりと、子どもを育てると同じように愛情を込めて作った野菜は、安心安全。採れたて野菜のうまみは、産地ならではのもの。近くの販売店や直売所に足を運んでみてはいかがでしょうか？



小松菜
komatsuna



カブ
turnip



トマト
tomato



人参
carrot



大根
daikon



里芋
taro

こんな野菜があります！

三芳町4Hクラブ

私たちは三芳町の農業後継者で組織される団体です。新しい野菜や農法に挑戦する会員も多く、会員同士で栽培方法や技術についてアドバイスをし合い、互いに刺激をもらっています。会の活動としては、町立保育園の給食用に季節に応じた地元野菜を納品したり、「いも掘りまつり」や「産業祭」などのイベントでの直売で、住民の皆さんに新鮮なみよし野菜をお届けしています。今年は団体の合併で会員数が増え、より多くの野菜が並ぶと思うので、ぜひお越しください。

三芳町4Hクラブ会長

田中 勇樹さん (上富 農家の13代目)

挑戦は次の世代へ

振り返れば、330年前の三富開拓もまた、大きな「挑戦」でした。水が乏しく、痩せた土の原野の前に、先人たちは考え、試行錯誤を重ねました。その積み重ねから生まれた知恵が、長い年月を経た今も、現在の三富の農業と風景につながっています。受け継がれてきたのは、農地や農法だけではなく、より良い作物を作ろうとする開拓者の心もまた、世代を越えて受け継がれています。

守るべきものを守りながら、新しいものを取り入れていく。330年前に始まった挑戦は、今を生きる農業者へ。そして、その先の世代へと続いていきます。

—特集・終—

開拓者の心は、未来へ。

▶あえて根の広がりを制限する「根域制限栽培技術」



生産するトマトの根域制限栽培技術の発表で知事賞を受賞

三芳町4Hクラブ 矢島 拓弥さん (上富 農家の7代目)

根域制限栽培のことを知ったのは大学で果樹を専攻していた時。以来、トマト栽培で収量だけでなく味にもこだわりたいという思いがあり、トマトの根域制限栽培の試験を始めました。トマトの根域制限栽培について発表する10/28(水)の関東ブロックについては緊張はあるものの、それ以上に楽しみな気持ちが大きいです。さまざまな人と交流しながら自分の取り組みや農業への想いを伝えたいです。

実りを育む三富の大地

富新田の開拓から330年。かつて痩せていた土地は、先人の落ち葉堆肥農法による土づくりと農家のたゆまぬ努力によって、今では多彩な農産物を育む大地へと変わりました。

次世代を担う若い力

そして今、その農業を次の時代へつなぐ若い力があります。三芳町で農業を担う人のうち49歳以下の割合は25.8%。全国の10.8%の約2.4倍です。

若い世代が農業の担い手として活躍していることは、三芳町の農業の大きな特徴の一

富の川越いも

(左の品種は一部。農家によって生産品種は異なります。)



紅はるか
Beniharuka

甘さ★★★★★



シルクスweet
Silksweet

甘さ★★★★☆



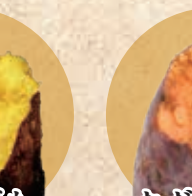
姫あやか
Himeayaka

甘さ★★★★★



紅あずま
Beniazuma

甘さ★★★★☆



すずほっくり
Suzuhokkuri

甘さ★★★☆☆



栗かぐや
Kurikaguya

甘さ★★★★☆



紅赤
Beniaka

甘さ★★★☆☆

ねっとり ←

→ ほくほく

三富地域でさつまいもがつくられたのは江戸時代中期。寛延4年(1751年)、南永井村(現在の所沢市)の名主 吉田弥右衛門が、当時さつまいも栽培の先進地であった上総国志津村(現在の千葉県市原市椎津)から種いも200個を買い付けて栽培し、近隣に広めたことが始まりです。三富地域で収穫したさつまいもは、新河岸川の舟運によって江戸へ運ばれ、出荷地である川越藩の名をとって「川越いも」と呼ばれるようになりました。現在では上富地区の26軒の農家が武蔵野の落ち葉堆肥農法により「富の川越いも」としてブランド化し、多彩な品種を生産しています。

※甘さや口当りは目安です。